

アンケート結果

2021.1.27

第13回小児がん拠点病院連絡協議会

小児がん拠点病院連絡協議会アンケート結果

2020年12月実施

小児がん拠点病院15施設にアンケートを依頼し、全15施設から回答あり。

回答総数：16

回答職種：医師16

調査項目：

問1. 「新型コロナウイルス感染症」に関して

問2. 「LCAS研修会」について

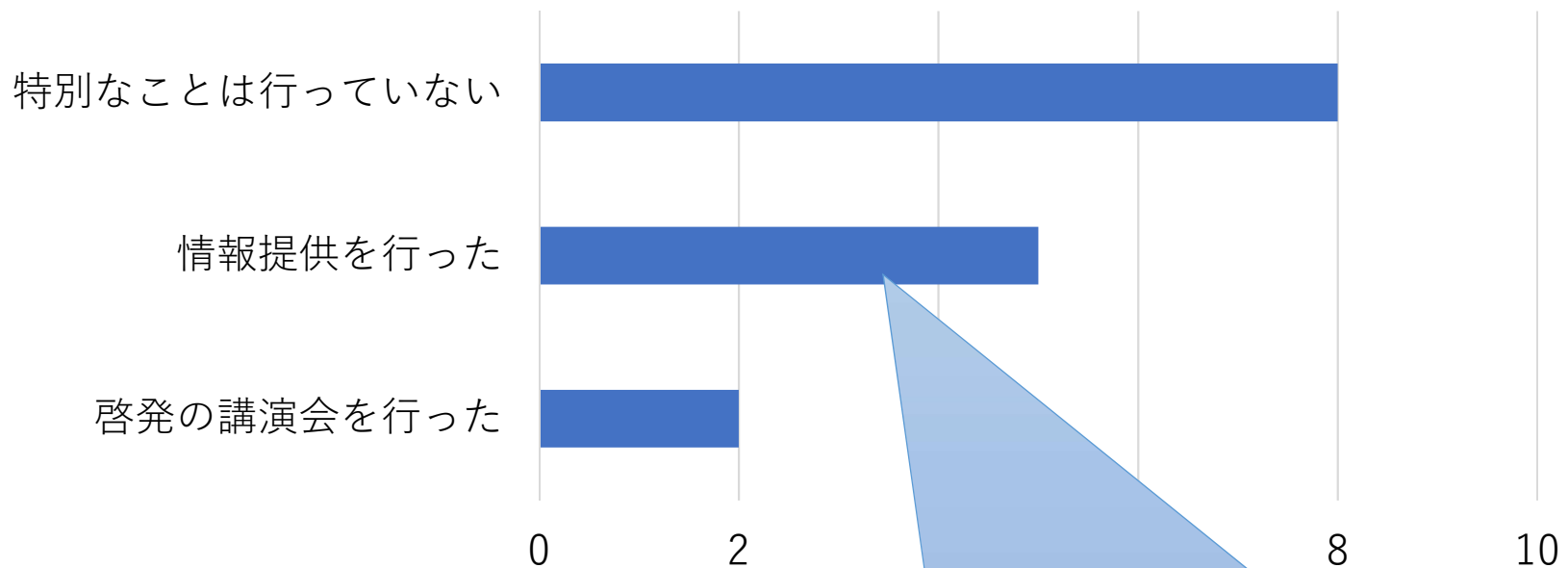
問3. 「小児がん遺伝子パネル検査」について

問4. 「小児脳腫瘍の診療」について

問5. その他、小児がん拠点病院事業について

問1. 「新型コロナウイルス感染症」に関して

1) 拠点病院として連携病院に対して行ったことはありますか？



- メーリングリストに関連情報を提供。
- 紹介時の感染症スクリーニングの実際につき、都度、情報提供と共有を行なった。
- 面会・付き添いの対応について、施設アンケートとその結果報告、さらに議論を行った。
- 6月・9月にブロックのテレビ会議にてcovid19における小児がん診療をテーマに議論した。

問1. 「新型コロナウイルス感染症」に関して

2) 困っていることがありましたら、お教えてください。

■ 患者・家族のストレスや負担増加

- 面会、外泊、家族宿泊施設の利用の制限。
- 人の出入りを最小限にするため、付き添いの交代が基本不可。外出も制限されているため、物質的な不便も増加。
- 外部からの援助（ピアサポートやボランティア）や病棟内イベントが制限されている。

■ 医療者の負担増加

- 看護師や保育士の負担が増加。
- 小児科からも新型コロナ病棟への応援を出すなど院内対応の負担。
- 入院時の感染症に関する煩雑な手続き、入院患者の発熱の対応など。
- 各種制限や付き添い者の健康監視についての説明などの手間が増加。
- 接触者の隔離による医療者のマンパワー制限。

問1. 「新型コロナウイルス感染症」に関して

2) 困っていることがありましたら、教えてください（つづき）。

■ 感染対応の具体的な方法について

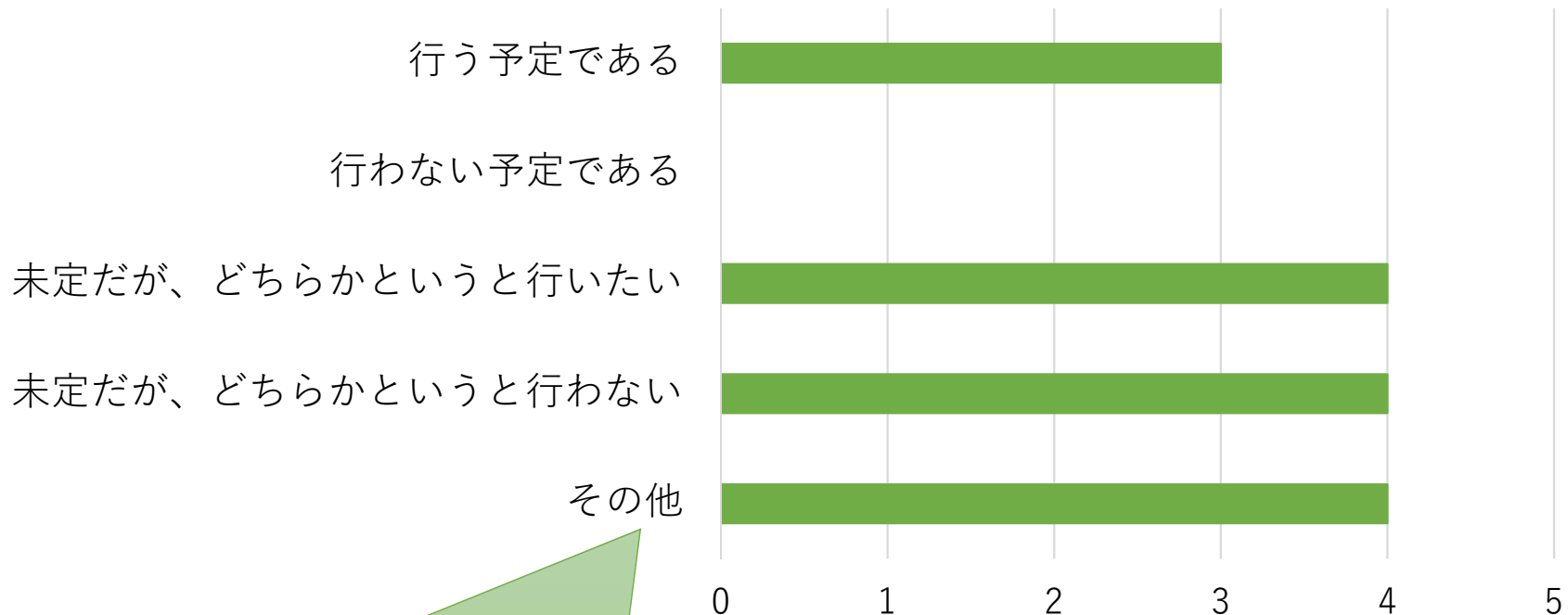
- 面会、院内学級、プレイルーム利用の制限の仕方

■ その他

- コロナ診療の看護師捻出のためAYA病棟が閉鎖され、AYA患者の療養環境が低下し、他世代患者と合わせて病床が逼迫している。
- 新規入院時には全例PCRを実施し、結果判明するまでは疑似症として隔離対応を実施するために医療資源や医療体制に負荷が増加（病室の不足を含めて）。
- 外来患者数の減少（通院キャンセルによる）。
- カンファなどがリモートが中心になっており、細かい部分での連携が不十分になっているのではないかと懸念がある。
- 診療面では特別な支障はありません。

問2. 「LCAS研修会」について

1) 令和3年度に貴施設が主幹となって開催される予定ですか？



- 同じブロック内で話し合って決める予定。
- 令和2年に実施するが、令和3年度も実施してもよい。他の拠点病院と相談する。
- 今のところ積極的には考えていないが、対応は検討する（マンパワー不足, 開催資金の不足）。
- 未定で検討中（マンパワー不足, 開催資金の不足）。

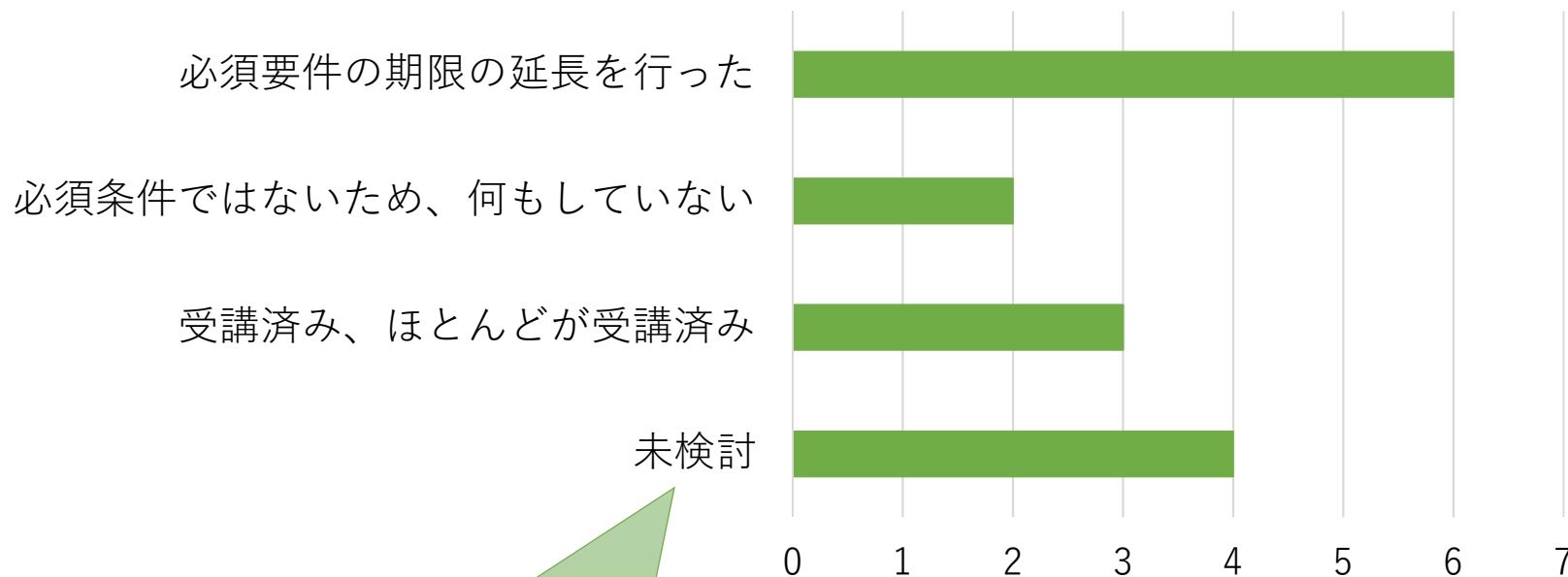
問2. 「LCAS研修会」について

2) 「行わない予定である」「未定だが、どちらかというに行わない」とご回答された施設にお伺いします。その理由は何ですか？

- ノウハウ不足。
- 施設内で十分検討できていない。
- ブロック内他施設の開催準備が進んでいる様子なので
- 今年度すでに主幹として研修会を開催した

問2. 「LCAS研修会」について

3) 連携病院の類型によっては、必須要件になっているかと思います。コロナ禍で研修を十分に行えない事態がございますので、期限の緩和などを含めまして、貴施設のご対応をお聞かせください。



- ブロックの協議会にて協議する（2施設）。
- まだ検討していない（1施設）。
- 必須要件だが、まだ期限に余裕があるため未対応（1施設）。

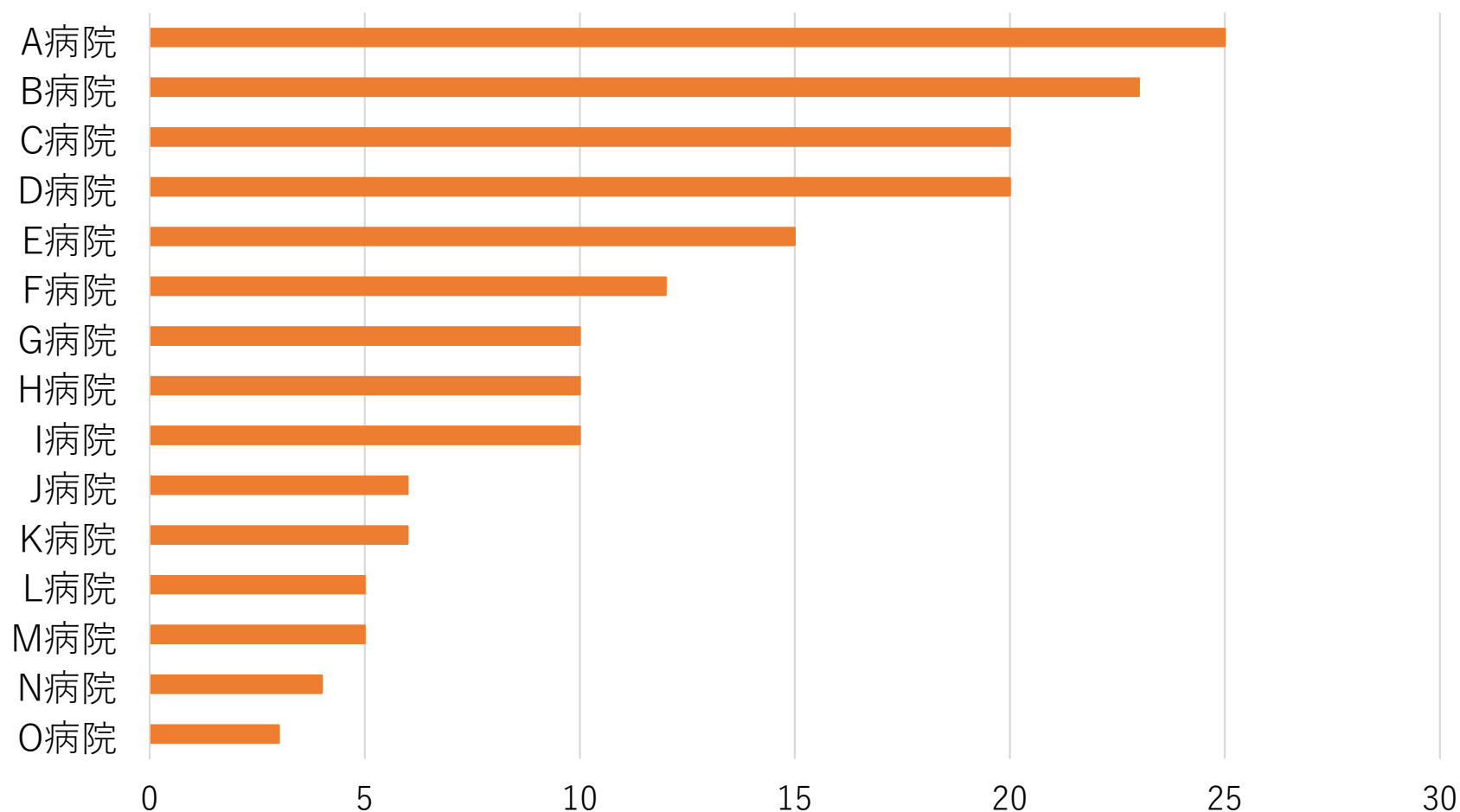
問2. 「LCAS研修会」について

4) 拠点病院でのLCAS開催につきまして、ご要望やご意見をお教えください。

- 現状web開催かと思いますが、そのノウハウ、当日の技術面でのサポートなどがあると助かります。
- 講師や内容についてサポートが欲しい。
- ノウハウがないため、しっかりとしたサポートを必要としています。
- 多くの拠点病院で継続的に開催することが必要と思われます。
- 連携病院を含めた関係者が一通り受講した後は、受講ニーズが減ると思われるので、規模縮小が必要だと思います。
- 長期フォローアップはかなりの人的資源を投入しているので、診療報酬に反映されるようになるようにしていけないかと思います。

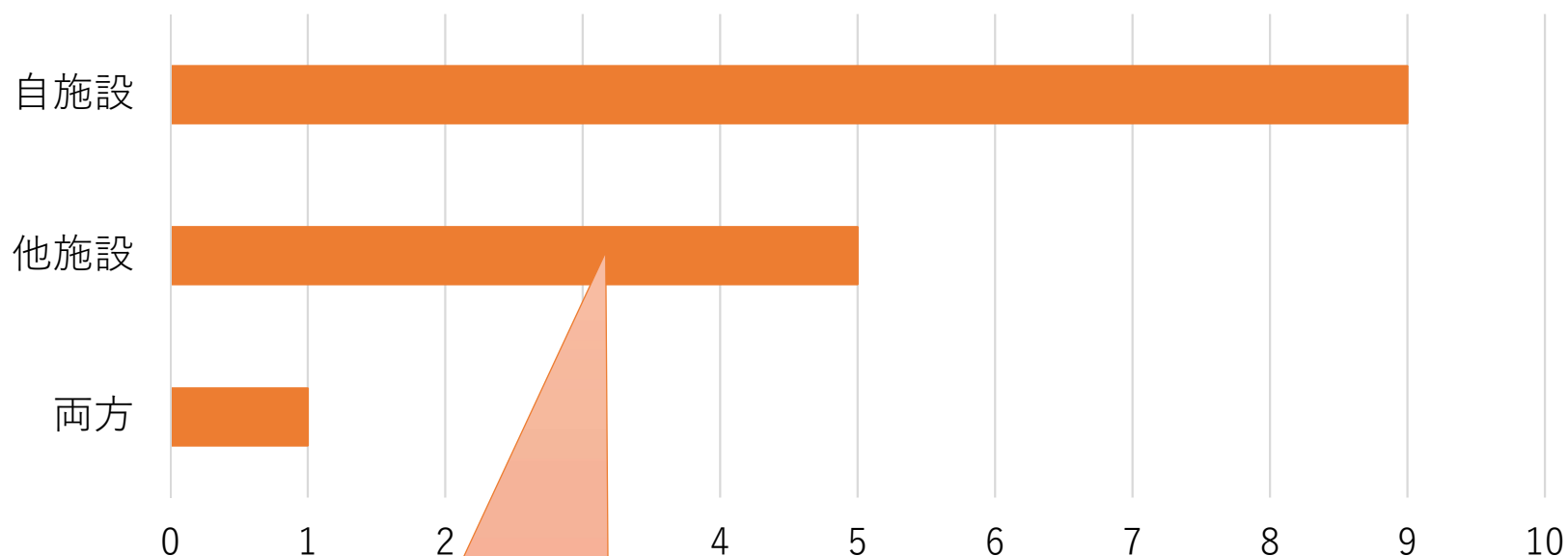
問3. 「小児がん遺伝子パネル検査」について

1) 2020年に診療で行ったパネル検査の件数をお教えてください。



問3.「小児がん遺伝子パネル検査」について

2) エキスパートパネルの依頼先をお教えてください。



- 国立がん研究センター（2施設）
- 国立成育医療研究センター
- 慶應義塾大学
- 神奈川県立がんセンター
- 埼玉県立がんセンター

問3. 「小児がん遺伝子パネル検査」について

3) パネル検査に関連して困ったことがありましたら、教えてください。

■ 標的遺伝子が検出されても、治療に結び付きにくい

- 小児がんに関する情報、特に治験情報がなく、その先の展開が難しい。患者申出療養制度などをもっと積極的に展開できたらよい。
- 遺伝子変異が検出されても、小児適応のある薬剤がほとんどなく実際の治療に結びつかない。患者及び医療者双方にとって精神的ストレスが大きい。
- drugableな変異が検出されても、小児患者さんが参加できる治験など情報提供できることがほとんどない。
- 手続きや作業が煩雑な割に小児では標的遺伝子が得られにくい。

■ 入院で算定できない（外来受診の必要がある）

- 入院中の算定ができず検査するためには外来受診の形が必要になる。
- 遠方居住の患者に頻回に（がん遺伝子診断部の）外来受診をしてもらう必要があり、患者への負担が大きい。

問3.「小児がん遺伝子パネル検査」について

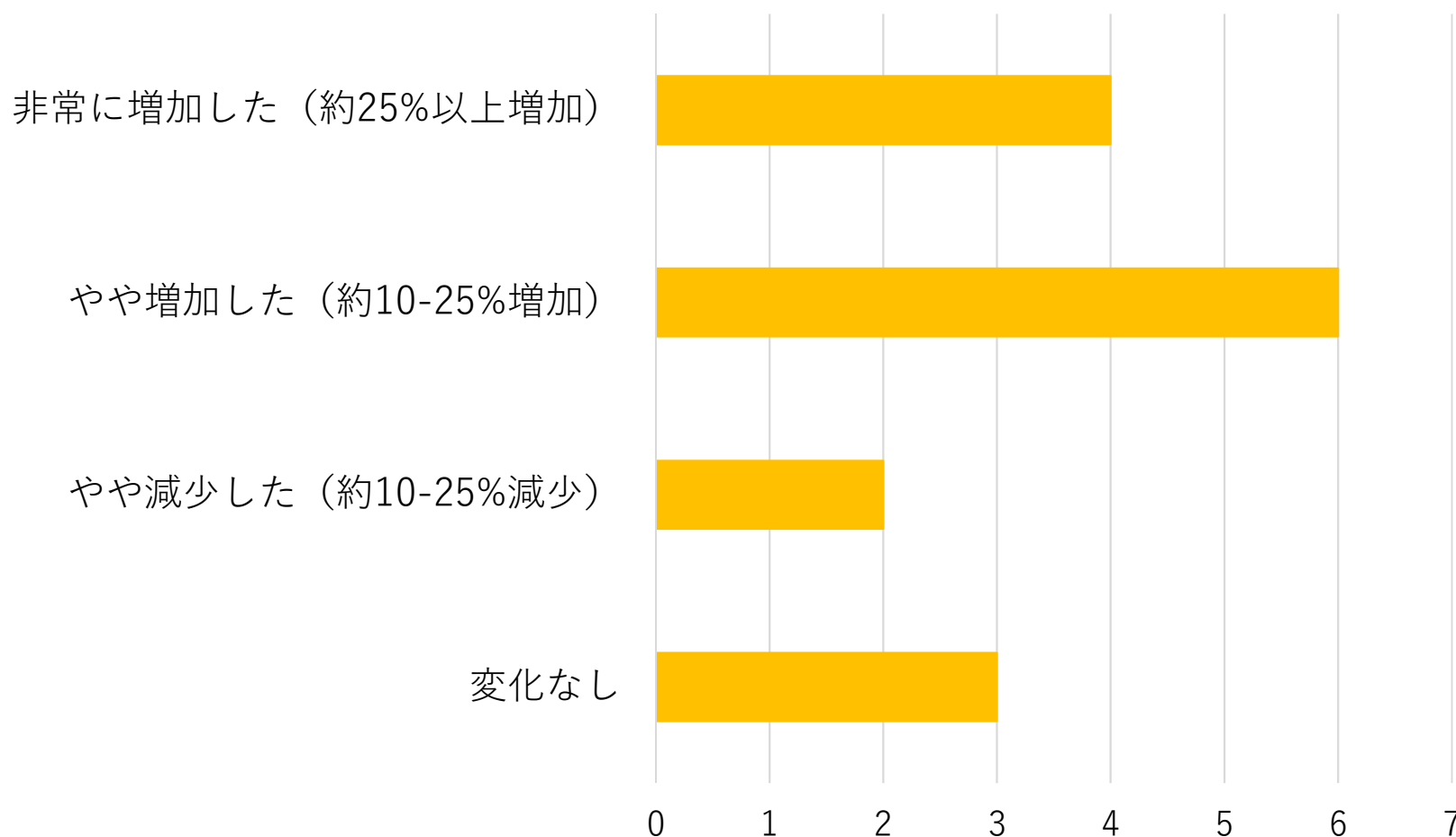
3) パネル検査に関連して困ったことがありましたら、お教えてください（つづき）。

■ その他

- 比較的高頻度にsecondary findings（TP53など）が同定される。
- がんゲノム医療拠点病院として個別化医療センターがあり、運用しやすい環境にある。
- C-CATとのやりとりに慣れずに少し苦労した。
- 小児がんのエキスパートが少ない。
- 連携施設からの検査数が伸びてこない。

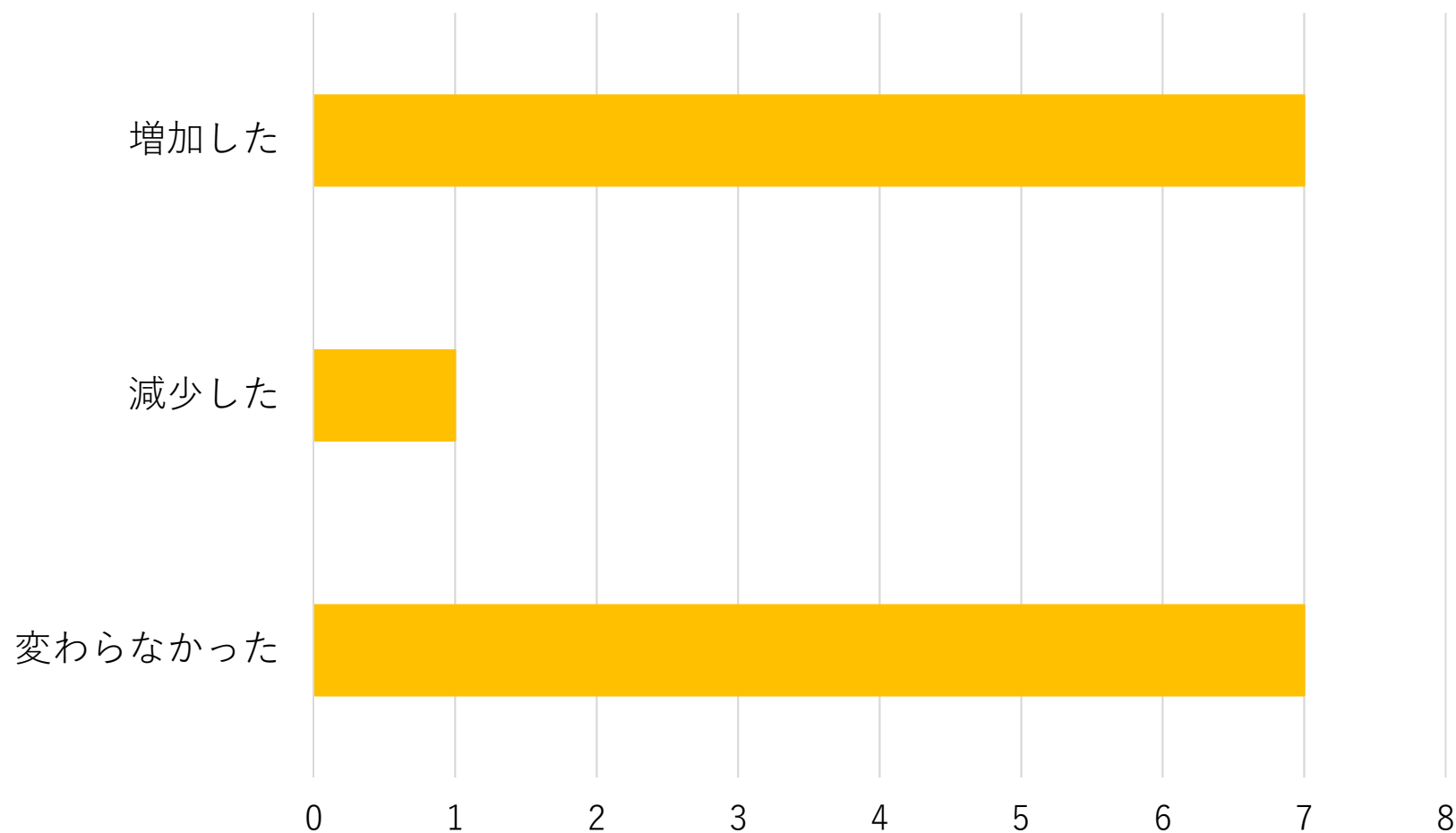
問4.「小児脳腫瘍の診療」について

1) 8年間で小児脳腫瘍症例はどのように推移しましたか？



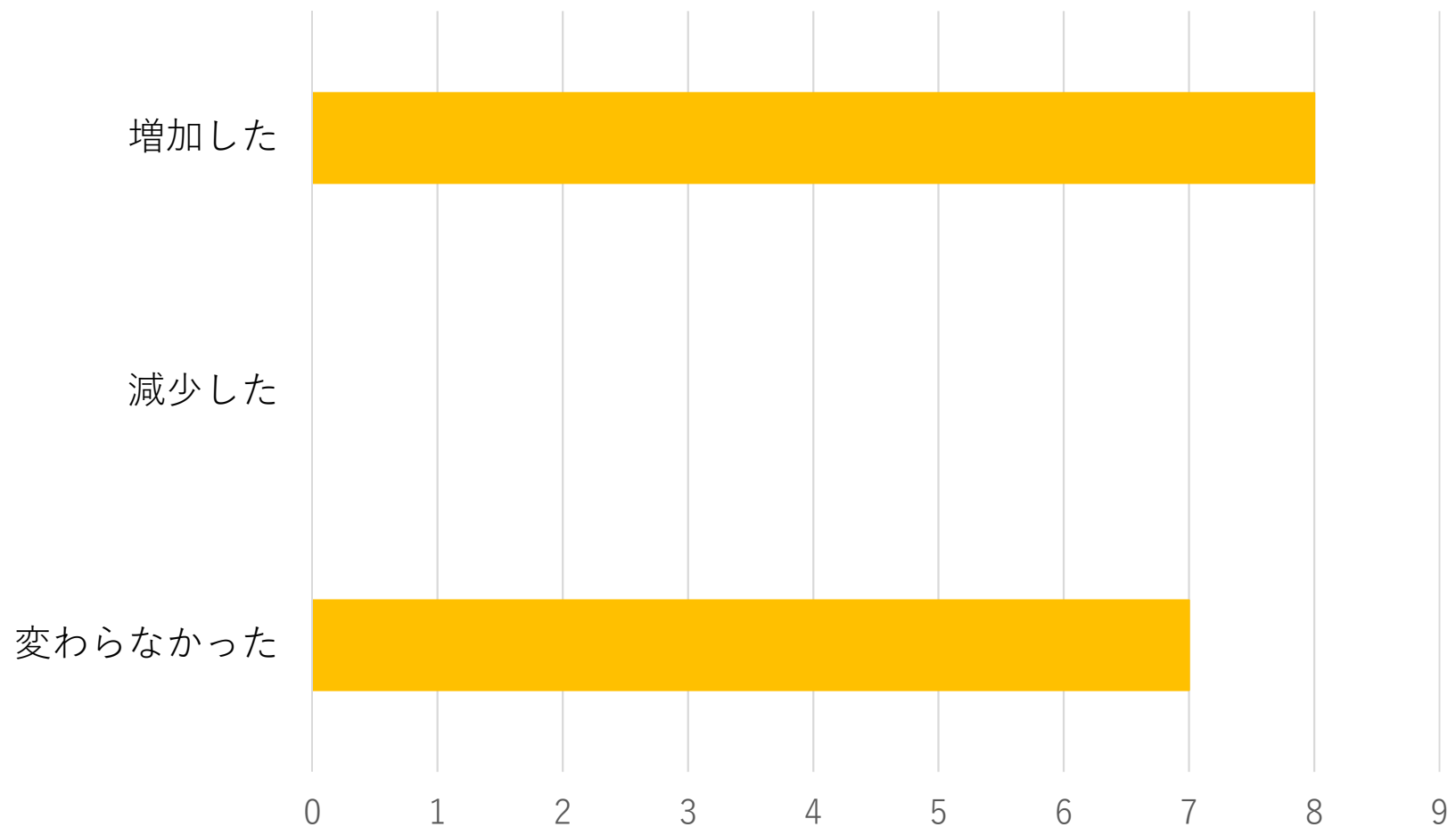
問4.「小児脳腫瘍の診療」について

2) 8年間で小児脳腫瘍診療に携わる小児科医の数は？



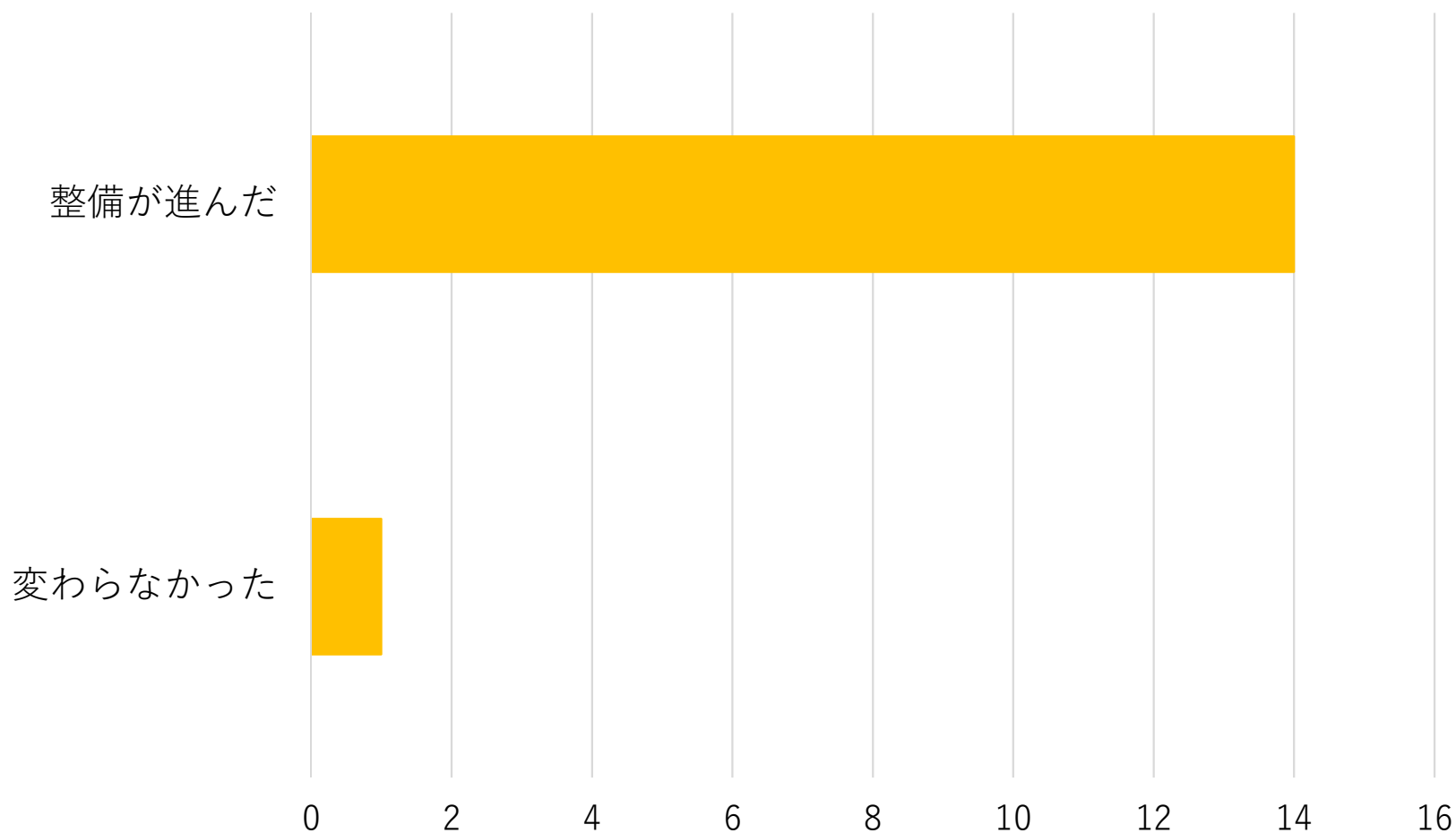
問4.「小児脳腫瘍の診療」について

3) 8年間で小児脳腫瘍診療に携わる脳外科医の数は？



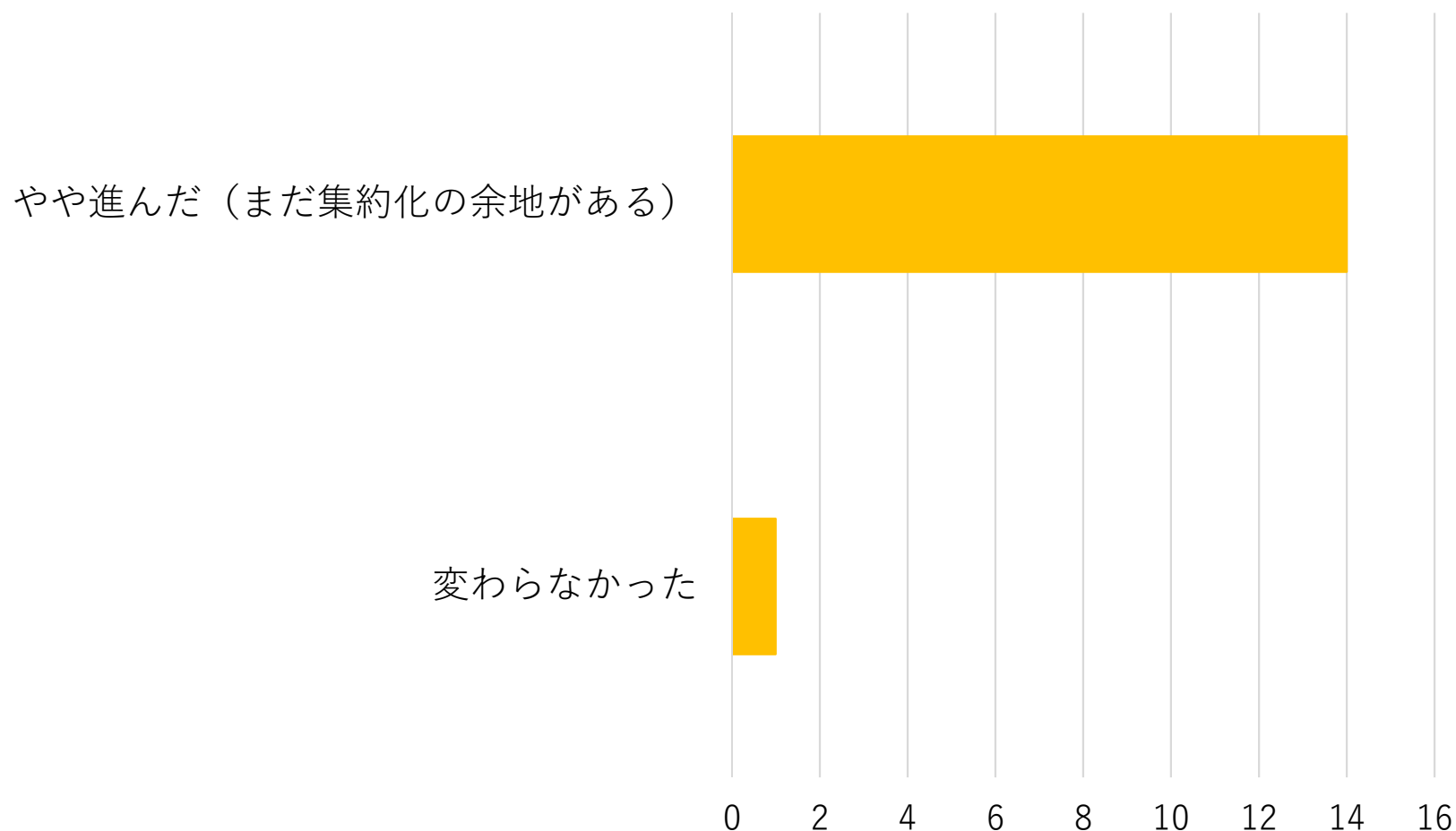
問4.「小児脳腫瘍の診療」について

4) 8年間で小児脳腫瘍診療に多職種診療体制は？



問4.「小児脳腫瘍の診療」について

5) 8年間で貴施設の診療ブロックの小児脳腫瘍診療の集約化は？



問4.「小児脳腫瘍の診療」について

6) 拠点病院での小児脳腫瘍診療について、ご意見をお教えてください。

- （小児脳腫瘍症例の回答について）2012年と2019年のがん登録データ（20歳未満、初回診断・治療、再発は含まず）を比較して回答しましたが、年によって症例数の増減があり、少しずつ減っているわけではありません。また、小児科の医師からは「小児科としては増えている」との意見でした。
- 拠点病院だけでなく連携病院も含め患者にとってもメリットのあるブロック内体制整備が重要と考えます。
- 拠点病院をはじめとした症例数の多い施設への集約化を進める必要がある
- 成育の公表した脳腫瘍手術に関する論文を地域の開業医向け研修会で必ず話すようにしているが、それにより集約化が少しでも進んでいるのかははっきりしない。集約化の方策がもう少し具体的にあるとよいと思います。
- 脳腫瘍は脳外科に紹介されることが多いので、集約化については、脳外科側の因子も大きいと考えます。
- 陽子線施設との連携の維持、強化が必要と思います。

問5. その他、小児がん拠点病院事業について

- 小児がん拠点病院になったことで、体制の整備は進み、それはよかったと思います。個人的にはもう少し増やして、ない地域もカバーできるようになってもいいのではと思います。
- 小児がん連携病院が指定されたが、あまり具体的な変化はないように感じます。お互いに具体的にどのように連携していけばよいのか、を打ち出さなければいけないと考えます。
- 連携病院の指定がされて一定期間が経過していますが、拠点病院と連携病院の間で、実際にどのような連携を行ったか、調査が必要と思います。
- 小児がん連携病院の事務的負担が増えつつあり、サポートが必要と考えます。
- 拠点病院自体のポストを増やすことは難しいのですが、地域の医療施設から医師・看護師・薬剤師・CLS・OT/PTなど他職種が短期研修(半年～2年)に来れるシステムと費用のサポートがあると良いと思います。
- 高校生遠隔授業支援や移植後予防接種無料化が全国同じ体制になるように省庁との連携が必要である。

ご協力いただき、ありがとうございました。

